

平成 29 年度第 1 回愛媛県出資法人経営評価専門委員会 議事概要

日 時	平成 29 年 9 月 26 日 (火) 10:00~11:20
場 所	環境保健福祉委員会室
出 席 者	
〔委 員〕	丸木委員長、岡本委員、弘末委員、山本委員 (4 名)
〔事 務 局〕	行財政改革局長、行革分権課長、同課主幹ほか

《 開 会 》

○ 局長あいさつ

○ 委員長選任

○ 委員長あいさつ

○ 議 事

(1) 平成 29 年度の経営評価の進め方等について

(2) 各県出資法人の平成 28 年度の取組状況を踏まえた平成 29 年度自己点検評価 (1 次評価) 結果等について

(3) 平成 27 年度 2 次評価結果を受けた中長期的経営計画の策定状況について

【丸木委員長】

それでは、これより議事に入らせていただきます。

まず、平成 29 年度の経営評価の進め方等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、今後の愛媛県出資法人経営評価専門委員会の審議スケジュール及び平成 28 年度事業における県出資法人の経営状況等について御説明させていただきます。

— 事務局説明 —

【丸木委員長】

ただいまの説明につきまして、御意見や確認事項等あるようでしたらお願いします。

【各委員】

(意見等なし)

【丸木委員長】

それでは、事務局の説明どおりに経営評価を進めていくこととさせていただきます。

次に、各県出資法人の平成 28 年度の取組状況を踏まえた平成 29 年度自己点検評価（1 次評価）結果等について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局説明 —

【丸木委員長】

ありがとうございました。事務局からの説明につきまして各委員からお気付きの点がありましたら御発言をお願いします。

【山本委員】

中長期的経営計画（資料 3）については、今年度の 1 次評価結果を踏まえて策定されたのか。

【事務局】

1 次評価は今年度に入ってから実施したため、29 年 3 月に策定されている中長期的経営計画には反映されていない。

【丸木委員長】

その他、御意見等ないようですので、議事を進めさせていただきます。

次に、平成 27 年度 2 次評価結果を受けた中長期的経営計画の策定状況について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局説明 —

【丸木委員長】

ありがとうございました。

事務局からの報告につきまして、各委員からお気付きの点等がありましたら、御発言をお願いします。

【岡本委員】

(資料 3 - 4) 愛媛の森林基金の経営計画書 8 ページ目の森林適正管理事業について、1 次評価では、森林受諾管理事業間伐等面積を成果指標としており、2 年連続で 0 ha という状況であるが、計画書では広葉樹林化モデル事業植栽面積・下刈り面積を成果指標に掲げており、新たに実施するという印象を持った。実際に、29 年度は既に着手しているのか。

【事務局】

計画自体が昨年度 3 月末に策定されており、広葉樹林化という要望等にマッチすれば事業として実施されることになると思われる。

【岡本委員】

(資料 2 - 5) 11 - 2 ページを見ると、森林受託管理事業間伐等面積が 0 ha であり、事業費は掛かっているにもかかわらず、成果指標では成果が表れていない。新たに策定した経営計画書において、実現の可能性があるものとして練られているのかという不安がある。

【事務局】

今後、状況を確認したうえで、2 次評価に反映したい。

【弘末委員】

全体的に、現状と計画とを照らし合わせると、知りたいことが分からないという印象を受ける。特に財務計画の細かい数字の根拠が明確でない点が気になる。ただ、問題点を洗い出して、それに対する対策を練っている点は評価できる。

【山本委員】

今年度の1次評価は踏まえていないとしても、法人の現状や課題とそれに対する実施方策がない。他の法人にも共通するが、県文化振興財団の施設管理事業を例に挙げると、31年度からの本館の閉館や松山観光コンベンション協会との連携等の課題を挙げているにもかかわらず、それらに対する具体的な方策がなく、事業計画とはいえない。PDCAサイクルの実践という観点から見ても、検証ができない。中長期的経営計画には、自己評価を踏まえ、より具体的な実施方策を落とし込むべきではないか。

岡本委員の意見にもあったように、愛媛の森林基金が新たに広葉樹化モデル事業に取り組むというのは、近年の水害等の状況からも必要性が高いと思うが、具体的にどう実施するのかという方策が見えてこない。また、森林が適切に管理された山の水が、海に流れ、漁業に密接に関わるプランクトン等に影響を与えるといった自然の流れから考えても、えひめ農林漁業振興機構が実施する事業とリンクしており、各法人の事業計画で連携が位置付けられていることが望ましい。

プロパー職員の育成や県の人的関与についても、法人間の連携による対応など、何らかの形で当委員会として提言ができるのではないか。外部評価機関による評価の場であり、これからは、縦割りではなく、横串を刺して連携していかなければならない。

まず、個々の計画の整合性を見直すとともに、課題に対する具体的な実施方策を検討してほしい。また、法人全体を俯瞰すると、縦割りになっていることから、今後は、法人間の連携を検討する必要がある。

【丸木委員長】

今回は、初めて中長期経営計画を策定したということで、一步前進したといえる。今後は、実施方策の実効性を高めるよう検討してほしい。

【丸木委員長】

その他全体を通じて何か御意見や御質問等はありませんか。
特にないようでしたら、以上で議事は終了します。

【事務局】

皆様、長時間の御協議大変お疲れ様でした。
以上で平成 29 年度第 1 回愛媛県出資法人経営評価専門委員会を終了します。

《 閉 会 》